

MIND

Lecithinum タイプは、集中力に欠けていて、忘れやすいです。物事を考えることを嫌います。疲れていて、睡眠をとっても、疲れがまったくとれません。歩くときは、足が重く、膝に力が入りません。呼吸も浅いです。牛乳を嫌います。ワインは好きです。

AFFINITY

Lecithinum は、主に脳、栄養系、血液に作用します。

CLINICAL APPLICATIONS

臨床では、主に精神的なストレスからくる疲労や衰弱に対して考慮されます。睡眠で疲労回復感がないのも特徴の1つです。

■一般

- ・神経衰弱症
- ・貧血
- ・慢性疲労症候群：十分な睡眠後も疲労がとれません。
- ・精力減退、無性欲：食欲もなくなります。喉は渴くほうで、ワインやコーヒーを好みます。
- ・消耗性疾患からの回復期の補助

Ledum plustre イソツツジ [尖鋭な物による刺傷や神経に達する傷]

Ledum plustre L.
Ledum decumbens

BACK GROUND

Ledum は、一般名で Wild rosemary, marsh tea, Labrador tea と呼ばれる北半球、とくにカナダ・北米・スカンジナビア半島・アイルランド・ロシア・日本原産で、湿原または湿った風衝地に生えるツツジ科の常緑低木です。この植物は、高山の湿地や湿った傾斜地、火山灰地に生え、高さ 50～80cm ほどの低木で、他の草木が生育できない、硫気が噴出しているような



ところにも見られます。初夏には 15mm 程度の白い小さな 5 弁花が、ボール状にまとまって開花します。葉は被針形で、革質、葉の裏には白と茶褐色の毛が混生していて、草のような葉の縁は、寒さに曝されると裏側にまくれて、寒さに耐えるようにできています。Ledum という名は、ギリシア語の ledos（羊毛の衣）

という語に由来します。これは、この植物の葉の裏側の羊毛のような柔毛から来ています。

植物全体に殺菌性があり、新鮮な葉は消毒薬のような匂いがして、13 世紀以来フィンランドやスウェーデンでは、害獣や害虫・外部寄生虫駆除に使用していました。ヨーロッパ北部では、この植物は、百日咳や下痢、皮膚病などの治療薬として広く使われていた時代もありました。1773 年の悪名高い茶税が導入されてからは、お茶の代用品として使われました。

MATERIAL

夏の開花期に収穫した植物全体を乾燥させたものを原料とします。この成分には、抗炎症作用のある精油、各種フラボノイド、トリペルテンなどが含まれています。

FIRST PROVING

ハーネマン（『Materia Medica Pura』第 4 巻）

AFFINITY

Ledum は、筋肉、筋膜、腱、骨膜、結合組織、血管運動神経、毛細血管（とくに皮膚と肺）、眼、神経に親和性があります。

CLINICAL APPLICATIONS

臨床では、とくに刺傷や動物に咬まれた傷、そして、冷湿布で楽になる慢性のリウマチなどに使用されます。

■外傷

- ・刺傷：鋭い物による刺傷や、神経に達する傷。冷やすと楽になります。化膿しそうな場合は、Pyrogeniumを併用します。
- ・動物による咬傷
- ・眼窩の外傷
- ・虫刺され：冷やすと楽になります。
- ・外傷性斑状出血：とくに眼の周り（Arnica, Symphytum）
- ・鼻血

■リウマチ

- ・関節リウマチ：寒さ、冷湿布で改善します。
- ・関節炎：とくに小関節
- ・痛風
- ・足や踵の腫脹や炎症：冷たい水に足を入れたいくなります。冷やすと楽になります。ストレッチをするのが好きです（他のツツジ科のレメディ、KalmiaやRhododendronもストレッチが好きです）。

■その他

- ・湿疹：冷湿布で楽になります。
- ・頭痛：冷たい風で楽になります。
- ・膿瘍：冷やすと楽になります。

- ・爪周囲炎
- ・多血症
- ・アルコール中毒症

MODALITY

▶ 患部の冷湿布、肢を冷水で冷やすこと（高山湿地植物の特徴）

◀ 運動、夜、布団を暖めること、触ることなど

卵やワインを嫌います。怒りっぽくなったり、孤独でいることを好みます。

LedumとHypericumは、ともに毒グモの毒を中和します。

外傷のとき、とくに突き刺したような傷にはArnicaに続いてLedumを使います。

RELATIONS

- ・Antidoted by Camphora
- ・Compatible Remedies：Aconite, Arnica, Belladonna, Bryonia, Nux vomica, Pulsatilla, Rhus toxicodendron, Sulphur

補足）動物に咬まれたときのレメディの代表的なものには、LedumのほかAceticum acidum, Apis mellifica, Arnica, Cantharis, Hypericum, Lachesisなどがあります。また局所には、CalendulaやHypericumのクリームを使います。インドでは、Lyssinなども使うことがあるようです。

Leprominum ハンセン病 [ハンセン病マヤズム]

Leprominum-H

Leprominum-A

BACKGROUND

Leprominumは、らい菌（Mycobacterium leprae）の感染に起因する慢性疾患、ハンセン病です。このらい菌は、桿状の抗酸菌の1つです。1873年にノルウェーのA・ハンセンによって発見されました。らい菌は、毒素をもたず、病原性は非常に弱いため、通常の人に対する病原性をほとんどもっていません。そのため、らい菌に感染しても、発病することはきわめて稀になっています。らい菌に対する免疫、感受性に特別な問題がある場合にのみ発病するとされています。この菌は、比較的低温で発育する性質をもっていて、末

梢神経の中で増殖します。

ハンセン病の症状は、個体の免疫能力や環境などによって、患者により症状の出方が大きく異なります。ハンセン病の分類法には、いくつかありますが、一般的には多菌型、少菌型、単一病変菌型の3つに分類されます。

基本的に末梢神経系と皮膚に障害が出ます。また、これらの障害によって、ケガをしたりする2次的障害を伴います。

- ・末梢神経系：知覚麻痺、視覚障害、運動神経障害、末梢神経肥厚など